

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 10 月 15 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/15 11:00 時点)

| 号機 | 注水状況 | | 原子炉圧力容器 下部温度 | 原子炉格納容器 圧力* | 原子炉格納容器 水素濃度 |
|-----|-----------|---------------------------------|-----------------|----------------|-----------------|
| 1号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレィ系：約 2.0 m ³ /h | 33.3 | 106.6 kPa abs | A系： 0.00 vol% |
| | | 給水系：約 3.0 m ³ /h | | | B系： 0.00 vol% |
| 2号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレィ系：約 4.4 m ³ /h | 44.9 | 4.22 kPa g | A系： 0.07 vol% |
| | | 給水系：約 2.1 m ³ /h | | | B系： 0.08 vol% |
| 3号機 | 淡水 注入中 | 炉心スプレィ系：約 4.5 m ³ /h | 45.7 | 0.22 kPa g | A系： 0.21 vol% |
| | | 給水系：約 2.0 m ³ /h | | | B系： 0.20 vol% |

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・10/14 10:14 原子炉への注水量の低下が確認されたため、以下のとおり注水量の調整を実施。

1号機：給水系からの注水量を約 2.6m³/hから約 3.0m³/hに調整、炉心スプレィ系からの注水量は約 2.0m³/hで継続中。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/15 11:00 時点)

| 号機 | 冷却方法 | 冷却状況 | 使用済燃料プール水温度 |
|-----|----------|------|-------------|
| 1号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 23.5 |
| 2号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 23.1 |
| 3号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 20.8 |
| 4号機 | 循環冷却システム | 運転中 | 30 |

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルへヒドラジンの注入を適宜実施。

【2号機】・10/15 6:07 使用済燃料プール代替冷却系において、弁追設および逆止弁点検、ドレン配管の設置作業を行うため、使用済燃料プールの冷却を停止。10/20 まで冷却停止予定。

なお、冷却停止時のプール水温度は約 23.0℃で、停止中のプール水温度上昇率については約 0.22℃/h と評価しており、停止中のプール水温上昇は約 28.9℃であることから、運転上の制限値 65℃に対して十分余裕があり、プール水温度管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

| 号機 | 排出元 → | 移送先 | 移送状況 |
|-----|---------------|--|-------------------------------|
| 2号機 | 2号機 タービン建屋 | → 3号機タービン建屋 | 10/4 10:19 ~ 10/14 9:54 移送実施 |
| 3号機 | 3号機 タービン建屋 | → 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)] | 10/4 10:43 ~ 10/15 10:18 移送実施 |
| 4号機 | 4号機 タービン建屋 | → 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)] | 10/15 11:55 ~ 移送実施中 |

・10/15 協力企業作業員が3号機タービン建屋1階大物搬入口奥の廊下にて水の漏えいを発見し、10:10 頃、当社社員が確認。10:18、3号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])へ溜まり水を移送しているポンプを停止したところ、11:16 に水の漏えいが停止。なお、漏えいした水は大物搬入口奥側のスロープ下部の床面にとどまっており、屋外への流出はない。漏えいの箇所は3号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])への溜まり水移送ラインであることを確認。漏えいの範囲は約 3m×約 6m、深さ約 5mm で、漏えい量約 90 リットルと評価。また、漏えいした水の核種分析を行った結果、セシウム 134 が約 1.0×10⁴Bq/cm³、セシウム 137 が約 1.8×10⁴Bq/cm³であり、漏えいした水はタービン建屋の溜まり水と判断。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/15 7:00 時点)

| 設備 | セシウム 吸着装置 | 第二セシウム 吸着装置 (サリー) | 除染装置 | 淡水化装置 (逆浸透膜) | 淡水化装置 (蒸発濃縮) |
|------|--------------|-------------------------|------|------------------|------------------|
| 運転状況 | 停止中 | 運転中* | 停止中 | 水バランスをみて 断続運転 | 水バランスをみて 断続運転 |

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/10/10 10:00 頃から 12:10 頃にかけて、1号機原子炉格納容器の貫通部の一つ(X-100B ペネ)より、CCD カメラおよび線量計をグレーチング下部まで挿入し、格納容器内部の水位確認および線量率測定を実施。調査の結果、水位はドライウエルの床上より約 2.8m 上部にあること、また、格納容器内部の線量率は、約 0.5Sv/h～約 9.8Sv/h の範囲であることを確認。
- ・H24/10/12 1号機原子炉格納容器の貫通部の一つ(X-100B ペネ)より原子炉格納容器内の滞留水を採取し、核種分析を実施。分析結果は、ヨウ素 131:検出限界値未満、セシウム 134: $1.9 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137: $3.5 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$ 。
- ・H24/10/13 9:30 から 11:30 にかけて、1号機原子炉格納容器の貫通部の一つ(X-100B ペネ)より原子炉格納容器内への常設監視計(温度計、水位計)の設置作業を実施。その後、計装関係の不具合の有無、出力データの確認等を行い、それらに問題がないことを確認。今回設置した常設監視計が計測している数値(午後1時現在)は、以下のとおり。
 - ・格納容器内水位:ドライウエルの床上より約 2.4m～3.2m の間(暫定値)
 - ・雰囲気温度 :約 34.1℃～35.1℃
 - ・滞留水温度 :約 37.0℃～37.4℃
 なお、同時刻の既設の温度計による雰囲気温度の測定値は、約 34.4℃～41.5℃で、今回設置した温度計の測定値と大きな差はない。今後も引き続き、今回設置した常設監視計のデータの監視を実施予定。

以上